

さんべい ゆき
三瓶 由紀生命科学部 准教授
博士(農学)／東京大学ホームページ URL
なし

主な研究業績

- Hara, Y., Sampei, Y. and Tanaka, H. (2018) :The Minabe-Tanabe Ume System: Linkage of Landscape Units by Locals. Sustainability 10 (4) , 1079.
- Hara, Y., McPhearson, T., Sampei, Y. and McGrath, B. (2018) : Assessing urban agriculture potential: A comparative study of Osaka, Japan and New York City. United States Sustainability Science 13, 937-952.
- Hara, Y., Yamaji, K., Yokota, S., Thaitakoo, D. and Sampei, Y. (2018) : Dynamic wetland mosaic environments and Asian openbill habitat creation in peri-urban Bangkok. Urban Ecosystems 21, 305-322.
- 三瓶由紀, 原祐二, マーコトゥリオ ピーター J. (2017) : ニューヨーク市水源林保全における農業保全地役権の特徴と運用状況. ランドスケープ研究 80 (5) , 701-706.
- 谷 政智・原 祐二・三瓶 由紀 (2016) : 堺市旧野田村地区における都市化による水路・農地利用の変容とカエル種生息分布への影響. 環境情報科学論文集 30, 237-242.
- 三瓶 由紀・竹中 祥・寺西 彩乃・原祐二 (2016) : 都市近郊住宅地における自宅・地域の緑に対する所有者の認識と保有継続意思. ランドスケープ研究 79, 653-658.

研究テーマ Research theme

持続可能な社会構築に資する
食農システムの検討

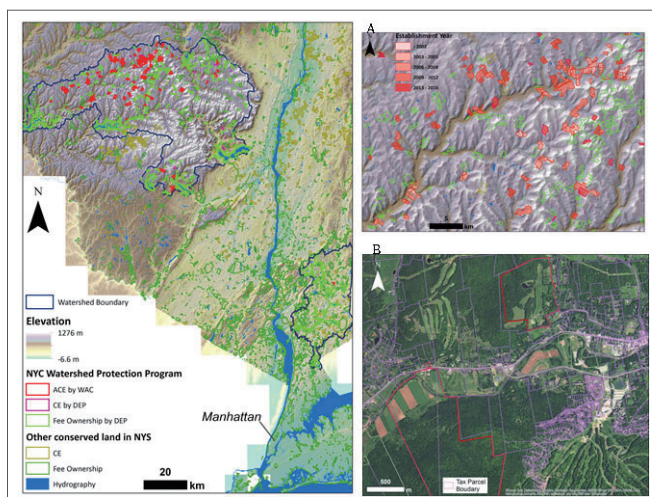
概要 Overview

私たちの生活は、農作物などの食料や工業製品など、多様な生物資源により成り立っています。将来にわたり、このような生物資源を利用していくためには、その保全や持続可能な利用に向けた社会システムの解明が求められます。

農作物の生産や消費は、社会経済はもちろん、地域の土地条件や文化にも影響を受けます。また制度などの社会システムの実現は、生産者や消費者である一般の人々の関心の高まりや関与が欠かせません。こうした観点から、地域資源の循環や地域生産物の価値の創出などのテーマについて、社会統計情報の分析や GIS 解析により、地域特性をふまえた食・農の実態把握を行います。また、アンケートやインタビューなどの社会調査を通じて人々のつながりについても明らかにし、その結果を踏まえ、持続可能な社会構築を目指すための制度やシステムを検討します。

たとえば、現在、給食で残った生ごみや里山の落ち葉などから堆肥を生成し、そのたい肥で育てた野菜を地域内で消費することによる地域内資源循環に関する実証研究をおこなっています。どの程度の効果が期待されるのかを、数値的な予測だけでなく、地域の人々の関心やつながりといったものまで含めて検証しています。

また、京都では伝統的な京野菜が有名ですが、その保全にむけ、京野菜のおかれた現状や産地ブランドとして保存するための体制や取り組み、一般の人々が京野菜をどう認識・評価しているかを把握することで、遺伝資源として残す方法としてだけでなく、時代の流れや地域の実情の変化に適應していくために生命科学がどのような役割を果たしうるのかについても検討します。



GIS を活用した保全制度の実施状況把握

応用分野 Application areas

- ・ 資源循環や京野菜保全研究を行う中で、幼児や小学生を通じた環境教育活動
- ・ 市民と生産者や行政をつなぐ情報提供のあり方の分析
- ・ 制度上のボトルネックや影響分析

共同研究等へのニーズ Need for joint research

- 地域資源としての地域生産物の評価
- 地域のソーシャルネットワークを活用した地域生産物の普及化